

親子で育む

「おもてなし」

礼儀学ぶスポーツ教室

2020年東京五輪・パラリンピックの開催で観光客の増加が見込まれる墨田区は4月から、就学前の5歳児とその保護者を対象に、スポーツを通じて「おもてなしの心」を育む事業を始めた。

同区では両国国技館(横網)が五輪のボクシング会場になっており、6年後に向け、幼い頃からあいさつや礼儀作法を身に付けてもらおうと、幼児向けのテニス教室や保護者対象のしつけ指導などを行う。今年度は区立保育園や幼稚園、希望する区内の私立幼稚園

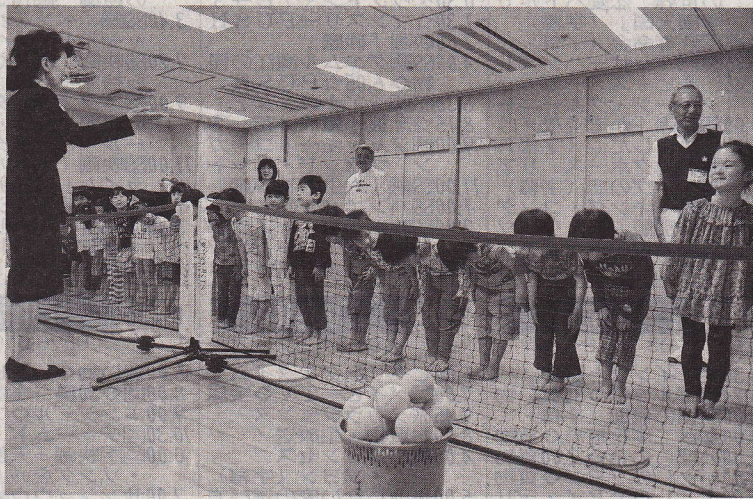
で60回程度開催する予定。

事業を受託するNPO法人「マナーキッズプロジェクト」(杉並区)によると、テニス教室では、練習前と練習後にお辞儀をし、互いに敬意を払う大切さを学ぶほか、手のひらにクラブをつけて、スポンジの球を打つ「手のひらテニス」を行う。

一方、保護者は、相手を思いやる心の大切さを説く小笠原流礼法の総師範らから家庭でのしつけについて講話を聴き、あいさつやお辞儀の仕方への指導を受ける。

24日には区立江東橋保育

墨田区 東京五輪へ事業



お辞儀の仕方を学ぶ子どもたち

園(墨田区緑4)で第1回の教室が開かれ、30人の5歳児と10人の保護者が参加。園児と保護者が正しいお辞儀の仕方などを学んだ後、「よろしくお願いま

す」と元気にあいさつし、ボールを打ち返した。保育士の今井美紀さん(43)は三男の暁仁斗君(5)と参加し、「6年後には、小学校の高学年になる。オリンピックのことを話しながら、子供たちとあいさつの大切さなどを考えたい」と話した。

園児ら「おもてなし」学ぶ

墨田区が保育園で開催

ゲーム形式でマナー教室

6年後の東京五輪・パラリンピックに備えて子どもたちの「おもてなしの心」を育もうと、墨田区は24日、同区緑4の江東橋保育園(江崎栄子園長)で、5歳児と保護者を対象



ゲームの前後にあいさつやお辞儀の仕方を学んだ保育園児ら。墨田区緑4の江東橋保育園で

て子どもたちの「おもてなしの心」を育もうと、墨田区は24日、同区緑4の江東橋保育園(江崎栄子園長)で、5歳児と保護者を対象にゲーム形式のマナー教室を開いた。今後、区立の全26保育園などで約60回にわたって開催していく。

認定NPO法人「マ

ナーキッズプロジェクト」(杉並区)との共同事業。この日は、小笠原流礼法の宮永年子師範が、保護者向けに家庭内でのしつけの仕方を指導。「あいさつは目を見て行う」「話しかけるときは必ず相手の名前を呼ぶ」などと助言した。

その後、保護者約10人と園児約30人がテニス形式のゲームにチャレンジ。ゲーム前後の礼などで、あいさつやお辞儀の仕方を実践した。

長谷川馨太郎君(5)と参加した母温代さん(34)は「おもてなしの基本として、まずは家でしっかりとあいさつのできる子になってほしい」と話した。

【木村敦彦】

墨田区「おもてなしの心」子供育成

東京スカイツリーへの観光客や2020年東京五輪開催で外国人観光客の増加が見込まれることから、墨田区は就学前の5歳児対象にスポーツを通じて「おもてなしの心」を育む事業を始める。

24日に江東橋保育園(同区緑)で開く「マナーキッズ親子でのひらテニス教室」を開催。区福祉保健部によると、テニスはコートに入る前にお辞儀をし、試合が終わった後に握手するなど、相手選手へのおもいやりの心を育成するスポーツであるため、幼児向けに手のひらサイズのラケットとスポンジを使って行う。保護者には、小笠原流礼法の総師範が家庭での躰について講義する。

同区は、区内の国技館が2020年東京五輪でボクシング会場となることから、「おもてなしの心を早くうちから養うため」(関口芳正子ども子育て支援担当部長)と企画した。26年度中、区内の保育園、幼稚園で計64回を実施する。

育てよう「おもてなし」の心



正しいあいさつを実践しながら「てのひらテニス」を楽しむ園児たち=墨田区緑で

墨田区事業保育園で講座

多くの観光客が訪れる(二〇二〇年の東京五輪までに、子どもたちを育てよう」と、墨田区は本年度、スポーツを通じてあいさつや礼儀作法を身に付ける人材育成事業を始めた。初の講座が江東橋保育園。区が委託した認定

NPO法人「マナーキッズプロジェクト」が企画した。参加親子は相手の目を見て「よろしくお願ひします」と言ってから、お辞儀をするなどの正しいあいさつの仕方を練習。あいさつを実践しながら、幼児用ラケットを付けた手で球を打ち返す「てのひらテニス」を楽しんだ。

参加した三浦みずすちゃん(五)は「ちゃんとあいさつができた。テニスも楽しかった」と笑顔。母親の麻子さんも「五輪に向けて、家でも意識してやってみよう」と話していた。

区は、本年度中に区立保育園二十六園の年長児五百三十人と、希望する幼稚園などの園児を対象に六十四回の講座を予定している。

(奥野斐)